

第123回 学長定例記者会見

日時：令和2年7月29日（水）11：00～11：30

場所：広島大学 霞キャンパス 臨床管理棟3階 大会議室

※ テレビ会議システムによる配信は行わない

※ YouTubeによる録画配信を実施

【発表事項】

1. 原爆の日に関連した広島大学主催行事について
 - (1) 広島大学原爆死没者追悼式および広島大学平和企画を実施
 - (2) クラウドファンディング公開のご案内
「原爆被爆者の記録を後世へ：標本データベース化プロジェクト」

2. 広島大学オンラインオープンキャンパス2020を開催します

【お知らせ事項】

1. 広島大学研究拠点を新たに認定
ー インキュベーション研究拠点3件を認定 ー

■次回の学長定例記者会見（予定）

日時： 令和2年8月下旬

場所： 広島大学 東広島キャンパス

令和 2 年 7 月 29 日

原爆の日に関連した広島大学主催行事について

75 回目の原爆の日を迎えるにあたり、広島大学の関連行事をご案内します。

8 月 6 日に、広島大学原爆死没者追悼式を東千田キャンパスで開催します。広島大学に包括された旧制諸学校の教職員、学生、生徒および児童で、在職中または在学中に原子爆弾に被爆され、その後亡くなられた方々の霊を慰めるために執り行うものです。

今回は新たに 23 人を書き加え 2, 022 人となった原爆死没者名簿を奉納します。

また、死没者追悼式の後に、平和企画を実施します。学内公募で選ばれた多国籍の学部学生・大学院生 13 人が、平和をテーマに徹底討論を行い、起草した「学生ヒロシマ宣言」を発表します。続いて、昨年度の平和企画でのパイオリン制作に続いて、今年度、被爆の記憶の継承と音楽による平和発信を目的として、被爆樹木等を材料としたピオラを制作したので、お披露目を行います。

その後、本学教員・学生による平和祈念ミニコンサートを開催し、平和を想う場とします。

7 月 29 日から 9 月 30 日まで READYFOR 株式会社と提携した「広島大学クラウドファンディング」（原爆被爆者の記録を後世へ：標本データベース化プロジェクト）を実施します。

広島大学原爆放射線医科学研究所では、原爆被爆者の組織標本を使った研究を行ってきました。組織標本は、経年変化により劣化が進み、世界的に貴重な資料が失われていく危機に瀕しています。

これらの資料を社会に公開し、後世につないでいくため、クラウドファンディングで資金を募り被爆者のスライド標本のデジタル化を実施します。

皆様のご支援をお願いいたします。

【お問い合わせ先】

財務・総務室広報部

広報グループ

TEL : 082-424-3701 FAX: 082-424-6040

令和 2 年 7 月 29 日

広島大学原爆死没者追悼式および
広島大学平和企画を実施

本学では、広島大学に包括された旧制諸学校の教職員、学生、生徒および児童で、在職中または在学中、広島に投下された原子爆弾により被爆され、その後亡くなられた方々の霊を慰めるため、下記のとおり原爆死没者追悼式を執り行います。また、同日、広島大学平和企画を実施します。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の対策および熱中症対策のため、参加人数について制限を行います。また、参加者にはマスク着用の上、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた上で実施いたします。

記

(1) 広島大学原爆死没者追悼式

日 時： 令和 2 年 8 月 6 日(木) 10 時開式

場 所： 広島大学東千田キャンパス内
「広島大学原爆死没者追悼之碑」前
(広島市中区東千田町一丁目 1 番 89 号)

式次第： 開式の辞
原爆死没者名簿奉納
黙とう
追悼の辞
献花及び献水
閉式の辞

※今回新たに確認された死没者 23 人を書き加えた原爆死没者
名簿(記載数 2,022 人)を奉納

<参考>

閉式後、引き続き、「原爆死没者遺骨埋葬の地碑」(東千田キャンパス内)に、広島文理科大学および広島高等師範学校の関係者による献花および献水を執り行います。

(2) 広島大学平和企画

広島大学平和企画 「被爆 75 年・広島大学からの平和メッセージ」

日 時：令和 2 年 8 月 6 日(木) 10 時 45 分～12 時

場 所：広島大学東千田未来創生センター 1 階 BIBLA Senda
(広島市中区東千田町一丁目 1 番 89 号)

内 容：

広島大学長挨拶 (10 時 45 分～10 時 50 分)

第 I 部 「学生ヒロシマ宣言」の発表・手交式

(10 時 50 分～11 時 10 分)

学内公募で選ばれた多国籍の学部学生・大学院生 13 人が、平和をテーマに徹底討論を行い、起草した「学生ヒロシマ宣言」を発表する。

1. 趣旨説明 (平和センター 川野センター長) ※別紙 1 参照
2. 「学生ヒロシマ宣言」発表 (日英)
3. 広島大学長への手交式

第 II 部 被爆樹木等を材料として制作した楽器 (ビオラ) お披露目

(11 時 15 分～11 時 25 分)

昨年度の平和企画でのバイオリン制作に続いて、被爆の記憶の継承と音楽による平和発信を目的として、被爆樹木等を材料としたビオラを制作したので、そのお披露目を行う。

1. ビオラお披露目
2. 企画説明 (国際室 嘉陽研究員) ※別紙 2 参照

第 III 部 広島大学教員・学生による平和祈念ミニコンサート

(11 時 30 分～12 時)

広島大学教育学部第四類音楽文化系コースの教員・学生による演奏を通し、平和を想う場とする。

1. 演目等解説 (教育学部 徳永准教授)
2. 教育学部第四類音楽文化系コース教員及び学生による演奏 (4 曲程度)
* 演奏では被爆樹木ビオラ及びバイオリンを使用

【お問い合わせ先】

(原爆死没者追悼式について)

財務・総務室財務・総務部総務グループ 谷、久保田

TEL:082-424-6032 FAX:082-424-6020

(平和企画について)

国際室国際部グローバル化推進グループ

岡田 TEL:082-424-6042

嘉陽 (かよう) TEL:082-424-4566

FAX:082-424-6179

2020年6月23日
広島大学平和センター

2020 学生ヒロシマ「平和」を考えるサミット
開催の趣意

戦後、国際社会は自由で開かれた国際協調主義を標榜し育んできた。経済のグローバル化が進展する一方、これに伴う影の部分として、途上国における貧困、気候変動、新興・再興感染症などの公衆衛生や難民問題が深刻化していった。これらのグローバル課題は、一国だけで解決することは困難で、国境を越えた世界規模での協調の必要性は常識であった。議論はあったにせよ、国際社会はグローバル化の瑕疵を反グローバリズムによってではなく、グローバルな協調によって乗り越えようとしてきたのである。

ところが今般の新型コロナ禍は、一国では解決できない問題であるにもかかわらず、戦後75年長きにわたって構築されてきたグローバルな協調体制を根底から覆すような事態を招いている。皮肉にも、各国は自国を考えることで手一杯となり、他国との協調を捨てた「自国第一主義」が広がりつつある。

こういった時代であるからこそ、「平和」を標榜する広島大学は、冷静にポスト・コロナの社会を見据えて、自国主義に陥らない国際協調による「平和」を模索し、具体的な提案をする使命を負っている次世代を担う学生を中心に、ポストコロナの「平和」を自由闊達に議論してもらう場として、2020 学生ヒロシマ「平和」を考えるサミットを開催する。

2020 学生ヒロシマ「平和」を考えるサミット: 募集要項

1. 趣旨・目的

選抜された広島大学の多国籍の学生が、「平和」の重要性・意味について議論、発表します。原爆、虐殺、捕虜虐待や飢餓など人類が直面した惨劇を真正面から捉え、そこから和解と恒久平和に向けた教訓を得ながら、未来の世界について考えます。

2. 2020年のテーマ

世界は新型コロナウイルスの流行によって、人々の健康は脅かされる中、私たちの社会は生活防衛のために日々、戦っています。しかし、事態が長期化するなかで、核廃絶に向けた知的対話、真剣な議論の火を消さないことも、また重要です。例えば、新型コロナ禍によって NPT 再検討会議は無期限延期されている状況を考えてみましょう。核軍縮に向けた議論は事実上、棚上げになってしまっています。したがって被爆 75 周年を迎える本年は、ポスト新型コロナウイルス時代の世界も見据えつつも、他方でヒロシマの経験という原点に立ち返りながら、被爆経験の継承と核廃絶の取り組みのために市民社会、国際社会が成すべき原則を構想し、普遍的平和を目指す「2020 学生ヒロシマ宣言」として発表します。

なお、新型コロナ感染拡大の影響がなければ、広島大学外の大学生の参加も考えていましたが、2020 年本サミットへの参加資格は、広島大学の学生に限定します。

3. 実施内容

- 2020 年 6～7 月に学生による全3回の集中討論(サミット)を行います。
- そのうち1回は、インターネットを通じ被爆者に参加いただく予定です。
- 選抜学生はセンターの研究会にも参加します。
- 使用言語は英語と日本語です。
- 2020 年 6～7 月に全3回、センター教員によるショート・レクチャーを予定しています。
- 被爆経験の継承と核廃絶の取り組みのために市民社会、国際社会が成すべき原則を構想し、宣言としてまとめ(英語・日本語)、普遍的平和を目指す「2020 学生ヒロシマ宣言」として 8 月 6 日に学長に手交します。

いずれも、インターネットを通じて、あるいは社会的距離をとりながら実施します。

4. 応募・選抜の方法

- 募集方法:《公募》
- 募集人数:8 名(最大)
- 応募資格
 - 2020 年 8 月 6 日時点で広島大学に在学する学生
 - インターネットを通じて議論ができる環境を有するもの
 - 英語で議論ができるもの(日本語会話もある程度できることが望ましい)
- 募集〆切:2020 年 6 月 7 日

- 必要書類:
 - 出願フォーム(Application Form)
 - エッセー「新型コロナ後の世界におけるヒロシマの役割について」(氏名とタイトルをのぞき、英文で500-800 Words)
以上をメールで送付する (heiwa@hiroshima-u.ac.jp)。表題には「Application for 2020 Student HIROSHIMA Summit」と明記のこと。

- 選考結果:
 - 平和センターのメンバーが最終候補者を選考します。
 - 最終候補者には 2020 年 6 月 12 日までに連絡します。

5. 問い合わせ

The Center for Peace, Hiroshima University

広島大学平和センター

〒730-0053

広島市中区東千田町 1-1-89

TEL 082 542 6975

FAX 082 245 0585

E-mail: heiwa@hiroshima-u.ac.jp

なお、選考過程に関する問合せには応じられませんのでご了承ください。

【被爆樹木等を素材とした楽器（ビオラ）制作について】

使用した被爆樹木等について：

- ・被爆樹木および被爆者埋葬地に自生していた樹木の材木を使用
- ・被爆樹木は爆心地から約 370m 地点にあるシダレヤナギで、2017 年 12 月の養生作業の際に一部伐採したもの。所有者立会いのもと、許可を得て取得した。
- ・埋葬地樹木は 2018 年 4 月に広島市南区似島の原爆死没者御遺骨発掘作業の際に発掘地の立木を伐採したもので地権者の許可を得て取得した（両樹木ともに使用目的として楽器制作も承諾済み）。
- ・2019 年にバイオリンの制作実績があり（バイオリン本体の側板、テールピース、あご当て、糸巻、エンドピン、へ使用した）楽器制作に耐えうる素材であることを確認済み。

制作：

- ・三原バイオリン工房の三原博志氏（イタリア・クレモナ国際バイオリン制作学校にて学ぶ、糸崎在住）に制作を依頼
- ・ビオラの一部（側板等）の素材として被爆樹木等を使用し、楽器を制作する。
※本来は材木を乾燥させる年数が必要であるため、近年に採取した被爆樹木等のみの素材ではビオラ一挺を制作することが難しい。楽器全体の強度の問題を解消するために、昨年に引き続き今回は一部（側板等）の素材に使用して制作を実施する。

今回の制作で被爆樹木等の材木を使用する部位：

- ・被爆樹木シダレヤナギ
⇒側板（上部・下部の 4 ヶ所）、裏板の象嵌細工（板にはめ込む装飾）
- ・埋葬地樹木エゴノキ
⇒側板（中部の 2 ヶ所）、あご当て
- ・その他の部分はヨーロッパからの輸入材（カエデ等）を使用
- ・被爆者感情に配慮し、ニスには茶色系の色で仕上げる予定（赤・オレンジ色系の色は炎や血液、ヤケドを連想させてしまう恐れがあるため、昨年は黄色系の色で仕上げた）
- ・シダレヤナギの爆心地からの距離は、広島市ホームページから引用『被爆樹木リスト（平成 31 年 4 月 1 日現在）』 <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/48/9262.html>



被爆シダレヤナギ（中区青少年センター西側）と約 240m 離れた原爆ドーム遠景
（被爆シダレヤナギから原爆ドームまでの距離は嘉陽がウォーキングメジャーで計測）



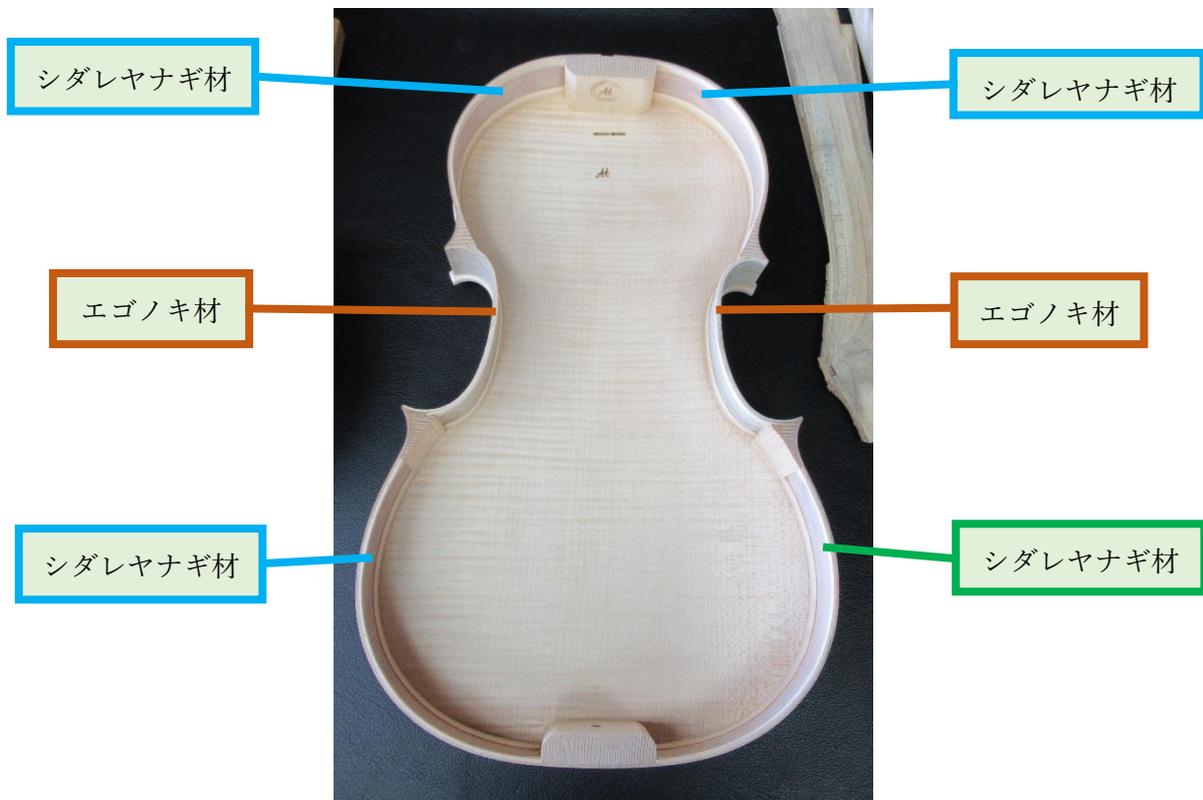
2017 年 12 月の養生作業における採取の様子、青○位置にあった腐食部分を切断したもの



2018 年 4 月の似島小筏地区における原爆死没者御遺骨発掘作業の際に伐採したエゴノキ
この樹木から 3~4m 離れた地点から被爆者とみられる御遺骨が発見された。



三原バイオリン工房にてビオラ制作中の三原博志氏（2020年6月2日）



制作途中のビオラ(裏板の内側と側板。制作ラベルは貼っていない状態)(2020年6月2日)



エゴノキ材で制作したあご当て（上面）

パテで虫食い部分を埋めてある



エゴノキ材で制作したあご当て（側面）

（2020年6月2日）



ニス塗り途中の側板と表板



裏板の象嵌細工（焦げ茶色部分がシダレヤナギ材）

（2020年6月29日）

令和 2 年 7 月 29 日

クラウドファンディング公開のご案内

「原爆被爆者の記録を後世へ：標本データベース化プロジェクト」

「広島大学クラウドファンディング」(READYFOR 株式会社と提携)として、以下のプロジェクトが公開となります。

「原爆被爆者の記録を後世へ：標本データベース化プロジェクト」
(公開期間：2020 年 7 月 29 日～9 月 30 日 目標額：350 万円)

1945 年 8 月 6 日に広島に原子爆弾が投下された直後から被爆した人々の医療は広島医師たちによってはじめられ、同時に、放射線による人体への影響に関する調査研究も進められました。しかし、そういった治療や調査研究で得た貴重な被爆者の記録や標本などは、そのほとんどがアメリカに持ち去られました。そして 1973 年に、ようやくその多くが日本に返還されました。広島原爆に関する返還資料は、現在、広島大学原爆放射線医科学研究所に保管されています。

これらの多くは被爆後早期の放射線影響を示す非常に数少ない貴重な資料ですが、時を経て標本の劣化が徐々に進んでおり、例えば、現在、スライド標本では退色しているものや破損しているものが少なくありません。

そこで、これ以上の劣化が進む前に、スライド標本について、専用のスライドスキャナーを用いて読み取り、デジタル画像として保存すること、そして、これらの画像に被爆状況や症状などの情報を加え、データベースを作成するプロジェクトを立ち上げました。そしてその一部は、個人情報の保護に十分配慮した上で一般にウェブで公開することを目指し、多くの方々に原爆の実相を伝えることも目的としました。

私たちがデータベース化の対象としている標本は、原爆の影響に関する貴重な医学的資料であると同時に、被爆者の皆様の声なき声でもあります。劣化が進み、その取扱いに注意を要するこれらの標本は、専門機関に委ねて適切にデジタル化し、データベースを構築することが、この声を継承することでもあると考えました。そのため、多くの皆様に、今回のプロジェクトへのご協力とご理解を賜りたいと考えました。

歴史的にも意義のある資料を次の世代に残し、原爆被爆者についての関心を風化させないために、そして今後の研究の発展につなげていくために。

皆様のご寄附を何卒よろしくお願い申し上げます。

プロジェクトページ URL: <https://readyfor.jp/projects/rirbmkaisekibu>

【お問い合わせ先】

原爆放射線医科学研究所
附属被ばく資料調査解析部 担当教員：杉原清香
TEL：082-257-5877 / E-mail：sugihara@hiroshima-u.ac.jp

クラウドファンディングに挑戦中です



目標金額

350万円

募集期限：

2020年9月30日(水)

23:00 まで

原爆被爆者の記録を後世へ 標本データベース化プロジェクト

ここで言う標本とは、原爆被爆者の方々が亡くなった際に、放射線の人体影響の研究のために病理解剖をさせていただき作成した組織標本のことです。

広島大学原爆放射線医科学研究所では、原爆被爆者の組織標本を使った研究を行ってきました。組織標本は、経年変化により劣化が進み、世界的に貴重な資料が失われていく危機に瀕しています。私たちはこれらの資料を社会に公開し、後世につないでいくため、被爆者のスライド標本のデジタル化を実施いたします。皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ウェブサイトはこちら

<https://readyfor.jp/projects/rirbmkaisekibu>



広島大学

【お問い合わせ先】

広島大学原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部
助教 杉原清香 MAIL sugihara@hiroshima-u.ac.jp
TEL 082-257-5877 (平日 9:00~16:00)



支援金額と特典のご紹介

¥3,000

お礼状と
お名前掲載

- ・お礼状、寄付金領収書
- ・データベース完成時にご案内メール
- ・データベース公開用ホームページにお名前を掲載（希望者）

¥5,000

パンフレット
「放射線の
遺伝子への
影響」

- ・お礼状、寄付金領収書
- ・データベース完成時にご案内メール
- ・データベース公開用ホームページにお名前を掲載（希望者）
- ・パンフレット「放射線の遺伝子への影響」

¥10,000

小冊子
「骨髓標本
からわかる
被爆の影響」

- ・お礼状、寄付金領収書
- ・データベース完成時にご案内メール
- ・データベース公開用ホームページにお名前を掲載（希望者）
- ・小冊子「骨髓標本からわかる被爆の影響」

¥50,000-①

スライド標本
実地説明会
1口につき5名まで
参加可

- ・お礼状、寄付金領収書
- ・データベース完成時にご案内メール
- ・データベース公開用ホームページにお名前を掲載（希望者）
- ・小冊子「骨髓標本からわかる被爆の影響」
- ・スライド標本実地説明会
（詳細はウェブをご確認ください）

¥50,000-②

プロジェクト
応援コース
（説明会不要な方向け）

- ・お礼状、寄付金領収書
- ・データベース完成時にご案内メール
- ・データベース公開用ホームページにお名前を掲載（希望者）
- ・小冊子「骨髓標本からわかる被爆の影響」
（スライド標本実地説明会不要のコースです）

¥100,000-①

鎌田七男^{名誉教授}
による
被爆者資料の解説
1口につき20名まで

- ・お礼状、寄付金領収書
- ・データベース完成時にご案内メール
- ・データベース公開用ホームページにお名前を掲載（希望者）
- ・小冊子「骨髓標本からわかる被爆の影響」
- ・鎌田七男先生による被爆者資料の解説
（詳細はウェブをご確認ください）

¥100,000-②

プロジェクト
応援コース
（企業・団体さま向け）

- ・お礼状、寄付金領収書
- ・データベース完成時にご案内メール
- ・データベース公開用ホームページにお名前を掲載（希望者）
- *企業や団体様向けのコースです
説明会等のご希望があればご相談ください。

¥300,000

プロジェクト
応援コース
（企業・団体さま向け）

- ・お礼状、寄付金領収書
- ・データベース完成時にご案内メール
- ・データベース公開用ホームページにお名前を掲載（希望者）
- *企業や団体様向けのコースです
説明会等のご希望があればご相談ください。

ご支援は
インターネット
から

クラウドファンディングとは？

プロジェクトを実現させるために、私たちはインターネット上で支援金を呼びかける仕組みを使っています。募集締切までに設定した目標金額に到達しなかった場合には、支援が全額キャンセル（返金）となります。支援方法はクレジットカード・銀行振込がございます。

ウェブサイト <https://readyfor.jp/projects/rirbmkaisekibu>

お問い合わせ 広島大学原爆放射線医科学研究所 附属被ばく資料調査解析部
助教 杉原清香 MAIL sugihara@hiroshima-u.ac.jp
TEL 082-257-5877（平日 9:00～16:00）



令和 2 年 7 月 29 日

広島大学オンラインオープンキャンパス 2020 を開催します

広島大学オンラインオープンキャンパス 2020 を、8 月 17 日（月）からインターネット上で開催します。また、8 月 23（日）を HU Premium Day とし、学長による基調講演等の配信やオンラインによる個別相談会を実施します。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインにより、以下の内容で実施することとしました。高校生をはじめ、広島大学に興味・関心のあるみなさんの積極的なご参加をお待ちしております。

○ 8 月 17 日（月）から公開するコンテンツ

学部紹介	学部長講演、学部・学科・コース等紹介、研究室紹介、学生メッセージなどの動画を公開します。
模擬授業	知を鍛える-広大名講義 100 選-として、本学の面白い授業を公開します。また、英語による授業も配信します。
キャンパス・クラブに関する紹介	各キャンパスや施設紹介の動画を公開します。また、クラブ・サークル活動を紹介します。
入試説明	一般選抜、広島大学光り輝き入試 総合型選抜、学校推薦型選抜、外国人留学生選抜等に関する説明動画を公開します。

○ 8 月 23 日（日）HU Premium Day

基調講演	学長による基調講演等を配信します。
個別相談 （要事前申込）	オンラインによる個別相談を行います。各学部における個別相談のほか、就職や授業料免除・奨学金、留学、入試に関する個別相談、女性の高校生・受験生や障害のある高校生を対象とした個別相談などを準備しております。

【お問い合わせ先】

教育室教育部入試グループ 中村・坂本 TEL:082-424-5696 FAX:082-424-6180

広島大学ONLINE OPEN CAMPUS2020

URL:<https://open.campus.hiroshima-u.ac.jp>



知のワンダーランドへようこそ!

HIROSHIMA UNIVERSITY

広島大学

ONLINE OPEN CAMPUS 2020

広島大学
公式キャラクター
ひろてぃです!



Date
開催日程

8/17^m_n 10:00
OPEN!



令和 2 年 7 月 29 日

広島大学研究拠点を新たに認定

－ インキュベーション研究拠点 3 件を認定 －

広島大学は、平成 26 年度から長期的に本学の顔となることを期待できる「自立型研究拠点」及び中長期的に自立型研究拠点を目指す研究者（分野）のグループである「インキュベーション研究拠点」を認定し、大学として重点的な研究支援を行っています。

今年度、新たにインキュベーション研究拠点 3 件を認定しました。

認定年度	自立型研究拠点	インキュベーション研究拠点
平成 25 年度	2	0
平成 26 年度	1	1
平成 27 年度	0	2
平成 28 年度	2	0
平成 29 年度	4 (うちインキュベーション 研究拠点からの昇格が 3)	3
平成 30 年度	0	3
令和元年度	3 (インキュベーション研究拠点 から昇格)	1
令和 2 年度	1 (インキュベーション研究拠点 から昇格)	3

本学は、平成 25 年度文部科学省「研究大学強化促進事業」に 22 機関の 1 つとして研究大学に選定され、世界トップレベルの研究大学となるべく、多様な研究成果を教育、社会貢献、産業活性化・イノベーションに直結させ、人類の未来社会に貢献することを目的とした研究力強化に取り組んでおります。この研究力強化の取組の一つとして「世界的研究拠点の継続的創出」を挙げられます。

世界トップクラスの研究大学として、国際展開力・発信力をさらに強化していくことを目的として認定された研究拠点は、活発な国際研究活動を通じた国際研究ネットワークの形成により国際発信力を向上し、本学の国際的評価の飛躍的な向上に寄与することを期待できます。今後、総合研究大学の強みを生かし、多様な研究拠点を形成するとともに、国際研究ネットワーク形成により、多様な人材が活発に活躍する場として発展し、教育研究活動を通じて、国際社会、地域社会において存在感のある大学への展開をめざしています。

【お問い合わせ先】

学術・社会連携室 学術・社会連携部

URA部門 小左古 学

TEL:082-424-4614 FAX:082-424-6189

世界トップクラスを目指す研究拠点

世界のトップクラスの研究大学になるためには、国際展開力・発信力を強化していく必要があります。その中心的役割を担う3つの研究拠点を新たに選出しました。

■第7期(令和元年度公募)広島大学研究拠点(3拠点)

(インキュベーション拠点(3拠点))

ポリオキシメタレート科学国際研究拠点

拠点リーダー 定金 正洋(先進理工系科学研究科)

研究分野 理・工(生物系以外)

活動内容

社会課題として顕在化している環境問題・エネルギー問題のための鍵材料であるポリオキシメタレートの科学を展開する国際研究拠点を形成する。

オルガネラ疾患研究拠点

拠点リーダー 齋藤 敦(医系科学研究科(医))

研究分野 医療系

活動内容

細胞小器官(オルガネラ)の機能制御と破綻の仕組みを解明して疾患の新しい予防・治療に結び付ける学際的研究を世界トップレベルの水準で推進する。

都市-農村流域圏の健全循環創成(SATO NET創成)

拠点リーダー 小野寺 真一(先進理工系科学研究科)

研究分野 人文・社会・教育、理・工(生物系以外)、理・工(生物系)

活動内容

都市部とその周辺との健全な循環の創成において、里山/里海など成功事例を有する瀬戸内海流域をもとに、アジア諸国での課題解決に資する新たな学術研究分野の創成を目指す。

広島大学研究拠点一覧(第1期～第7期)

自立型研究拠点(13拠点)

期	公募年度	選定年度	拠点名称(日)	拠点名称(英)	拠点リーダー	ESI 22分野
第7期(昇格)	28	R2	プレート収束域の物質科学研究拠点	Hiroshima Institute of Plate ConvErgence Region Research	先進理工系科学研究科教授・井上 徹	地球科学
第6期(昇格)	27	R1	エネルギー超高度利用研究拠点	Advanced Core for Energetics	先進理工系科学研究科教授・西田 恵哉	工学
第6期(昇格)	27	R1	広島大学医療経済研究拠点	Hiroshima Institute of Health Economics Research	人間社会科学研究科教授・角谷 快彦	経済学・経営学
第6期(昇格)	25	R1	広島大学健康長寿研究拠点	Hiroshima Research Center for Healthy Aging	統合生命科学研究科教授・河本 正次	分子生物学・遺伝学
第4期	28	29	創薬・バイオマーカー拠点	The Research Center for Drug Development and Biomarker Discovery	医系科学研究科(薬)教授・田原 栄俊	分子生物学・遺伝学
第4期(昇格)	25	29	キラル物性研究拠点	Chirality Research Center	先進理工系科学研究科教授・井上 克也	物理学
第4期(昇格)	25	29	極限宇宙研究拠点	Core of Research for Energetic Universe	先進理工系科学研究科教授・深沢 泰司	宇宙科学
第4期(昇格)	25	29	基礎研究を畜産技術開発につなげるトランスレーショナル型研究拠点-日本型(発)畜産・酪農技術開発センター	The Research Center for Animal Science	統合生命科学研究科教授・吉村 幸則	植物・動物学
第3期	27	28	窒素循環エネルギーキャリア(Nキャリア)研究拠点	Research Center for Nitrogen Recycling Energy Carrier	白熱科学研究支援開発センター教授・小島 中継	材料科学
第3期	27	28	うつ病の革新的診断・治療法開発研究拠点	Research Center for Innovative Diagnosis and Treatment of Depression	脳・こころ・感性科学研究センター 特任教授・山脇 成人	精神医学・心理学
第2期(継続)	25	26	社会実装指向型HiSENS 拠点	HiSENS Research Center	先進理工系科学研究科教授・石井 抱	工学
第1期(継続)	24	25	クロマチン動態数理研究拠点	Research Center for the Mathematics on Chromatin Live Dynamics	統合生命科学研究科教授・楯 真一	生物学・生化学
第1期(継続)	24	25	肝臓・消化器研究拠点	Liver Research Project Center in Hiroshima	医系科学研究科(医)教授・茶山 一彰	臨床医学

インキュベーション研究拠点(13拠点)

期	公募年度	選定年度	拠点名称(日)	拠点名称(英)	拠点リーダー	ESI 22分野
第7期	R1	R2	ポリオキソメタレート科学国際研究拠点	International Network on Polyoxometalate Science	先進理工系科学研究科教授・定金 正洋	材料科学
第7期	R1	R2	オルガネラ疾患研究拠点	Core of Research for Organelle Diseases	医系科学研究科(医)准教授・齋藤 敦	分子生物学・遺伝学
第7期	R1	R2	都市-農村流域圏の健全循環創成(SATO NET創成)	Catchment Healthy Cycle between urban and rural in Setouchi to Asia, toward the creation (HURu-SATO)	先進理工系科学研究科教授・小野寺 真一	環境/エコロジー
第6期	30	R1	次世代太陽電池研究拠点	Center for Next Generation Photovoltaics	先進理工系科学研究科教授・尾坂 格	工学
第5期	29	30	ダイバーシティ&インクルージョン科学の構築と実践のための研究拠点	Developing science and technology for diversity and inclusion	人間社会科学研究科教授・坂田 桐子	精神医学・心理学
第5期	29	30	バイオジェニックナノマテリアル融合研究拠点	Consolidated research for biogenic nanomaterials	統合生命科学研究科准教授・岡村 好子	生物学・生化学
第5期	29	30	MBR拠点	MBR Center	先進理工系科学研究科教授・大下 浄治	化学
第4期(継続1)	28	29	教育ヴィジョン研究センター	Educational Vision Research Institute	人間社会科学研究科教授・草原 和博	社会科学・一般
第4期(継続1)	28	29	「光」ドラッグデリバリー研究拠点	Hiroshima Drug-Delivery Research Center Using Photoirradiation	先進理工系科学研究科教授・安倍 学	化学
第4期(継続1)	28	29	次世代を救う 広大発 Green Revolution を創出する植物研究拠点	The Research Core for Plant Science Innovation	統合生命科学研究科教授・和崎 淳	植物・動物学
第2期(継続2)	26	27	スマートバイオセンシング融合研究拠点	Integrated Research Center for Smart Biosensing	統合生命科学研究科教授・黒田 章夫	生物学・生化学
第2期(継続2)	26	27	日本食・発酵食品の革新的研究開発拠点 - 日本食の機能性開発センター -	The Research Center for Japanese Foods	統合生命科学研究科教授・島本 整	農業科学
第1期(継続2)	25	26	緊急被ばくに即時対応できる再生医療研究拠点	Center for Regenerative Therapy for Immediately Responsive to Radiation	原爆放射線医科学研究所教授・東 幸仁	臨床医学